

# 色つき瓶「砂」に再資源化

銚子市内で電気工事関係の会社を営んでいた伊藤憲一会長(69)が廃ガラス瓶の処理・再商品化を目指して設立した。

使用済みガラス瓶は通常、無色、茶色、その他の3種類に分別・収集される。無色と茶色は洗浄後に再使用されたり、新たな瓶の原料になったりするが、色つき瓶は廃棄されていた。この色つき瓶を「もったいない」と考え、再資源化する技術を研究し、2001年に開発したのがリサイクルガラス造粒砂「サンドウ

## ガラスリソーシング

エーブG」だ。破砕機に特殊な加工をしてガラス特有の「切れ目、刺さる」を解消、直径5ミリ未満のガラス砂にした。自然砂の代用品と



伊藤憲一会長(左)と赤坂修社長

して、軟弱地盤改良のパイル砂のほか、路床の埋め戻し、暗きょ資材などとして活用されている。05年には第2回エコプロダクツ大賞で推進協議会会長賞を受賞。現在、2

00以上の自治体のほか、約100の企業と契約、サンドウエーブGの生産量は年間約6万トに達している。また、金属缶やペットボトルなどの飲料水の選別、圧縮、梱包などにも



本社敷地内に建てられた災害備蓄倉庫—銚子市で

力を入れており、将来的には総合廃棄物処理会社を目指している。16年には成田市の成田工場に、1時間あたり約30トの処理能力を持つ国内最大級の混合飲料容器選別施設を新設した。来年の東京五輪・パラリンピックに向け、さらなる処理能力の改善を目指している。

東日本大震災を教訓に16年には本社内に近隣住民も受け入れる災害備蓄倉庫を建設するなど、社会貢献にも積極的だ。伊藤会長は「今後も廃棄物に新たな価値を見いだせるよう努力していきたい」と、力強く語った。

### 【近藤卓資】

ガラスリソーシング  
本社・銚子市春日町740の1▽1998年設立  
▽従業員70人

底力

ちばののこ